

ちょっと気になったこと…いっしょに考えてみませんか

石川の子どもたちは、それぞれ、成長してくれたと思います。その子によって、学力を伸ばした子、体力や運動の技術を伸ばした子、音楽や美術的な力・感性を高めた子、友達との関係を広げたり深めたりした子、やさしさや思いやりの気持ちを豊かにした子、自ら進んで挨拶できる子、誰とでもさわやかに応対できる子、好き嫌いをなくした子など…。

成長が見られた反面、悩んだり苦しんだりした部分があった子もいたと思います。年齢や発達段階に応じたものもありますが、「（年齢が進んで）あまり話さなくなった」「表情が固くなった」「あいさつをしなくなった」「家でゲームばかりして怒られている」「きちんと勉強していないようだ」「人にやさしくない言動が見られる」「友達とトラブルを起こす」「大人や先生の話聞かない」など…。

ここでは、「学校で起きるトラブル」の原因について考えてみます。それは、少し気になる子どもの発言に出合ったからです。

「お母さんやお父さんからのプレッシャー（大きな期待）があって辛い」
「ぼくなんて、お母さんに見てもらえない。おねえちゃん（下のきょうだい）の方が大事だもん」
「きょうだいから嫌なことされる」
「（下の）きょうだいがしたことなのに、最後は（兄である）自分が（も）怒られる」

この発言は、ある記事に載っていました。これを書いている私は一人っ子です。いつも、「きょうだいがいいたらなあ」と思っていました。私の子どもは2人（男・女）います。二人とも成人していますが、妹は兄を慕っており、小中高時代、兄は妹と良く遊んでくれていました。

* 「お母さんやお父さんからのプレッシャー（大きな期待）があって辛い」
* 「きょうだいから嫌なことされる」

あくまでも想像ですが、例えば、上や下のきょうだいトラブルを起こしたり勉強がうまくいかなかったりすると、穏やかに過ごしていたり勉強の理解度が高いその子が立派に見え、「お前はけんかしないだね」「お前は〇〇という高校に行くんだぞ」と、大きな期待を伝えて寄せてしまうのでしょうか。その子が家庭内で認められるほど、きょうだい達から疎まれ、嫌なことをされるのかもしれませんが。また家で認められない子は、そのイライラを学校の友達にぶつける、かもしれません。

* 「ぼくなんて、お母さんに見てもらえない。おねえちゃん（下のきょうだい）の方が大事だもん」
* 「下のきょうだいがしたことなのに、最後は（兄である）自分が（も）怒られる」

あくまでも想像ですが、例えば、下のきょうだいトラブルを起こし続けていると、親の心配がその子に集中します。声も手も掛けるでしょう。問題を起こさず良い子に見えるきょうだいには「お前は大丈夫だね」とか「兄であるお前がもっとしっかりして」と言い、かけるべき「愛情」の量が減ってしまう…。それらが続き、愛着形成が不十分だと、いつか心を爆発させてしまう、かもしれません。

前回、習い事や社会体育でのトラブルや人間関係を学校に持ち込ませないようお願いをしました。今回のお願いは、きょうだいへの接し方についてです。きょうだいであっても、違うことがほとんどです。きょうだいでは比べたり、期待の度合いを大きく変えたり、声掛けや会話でのかわりに差があったりしないようお願いします。家庭内で否定し続けられた子（認められない子、愛情をかけられない子、悪い意味できょうだいと比べられた子）は、どこかで何か（トラブル）を起こすことが多いです。

一人っ子やきょうだいの年が離れた子も同じです。他の家族の子と比べたりせず、その子の良さや伸びに共感し、時には抱きしめるなど、存在を認めてあげてください。生き方の参考になるきょうだいがない（離れている）ので、その分、外に連れ出し、他の仲間・友達と触れ合う（切磋琢磨し合う）時間を確保するのも良いと思います。今の時代、たくましさも必要です。

「子は、親の姿を見て育つ」とか「子は、親の鏡だ」と言われます。仕事の忙しさを原因にせず、どうか、今できる限りの愛ある声掛け、対応をお願いします。愛情をたっぷり受けた子は、善悪の判断もでき、この先の厳しい時代も生き抜けると信じています。